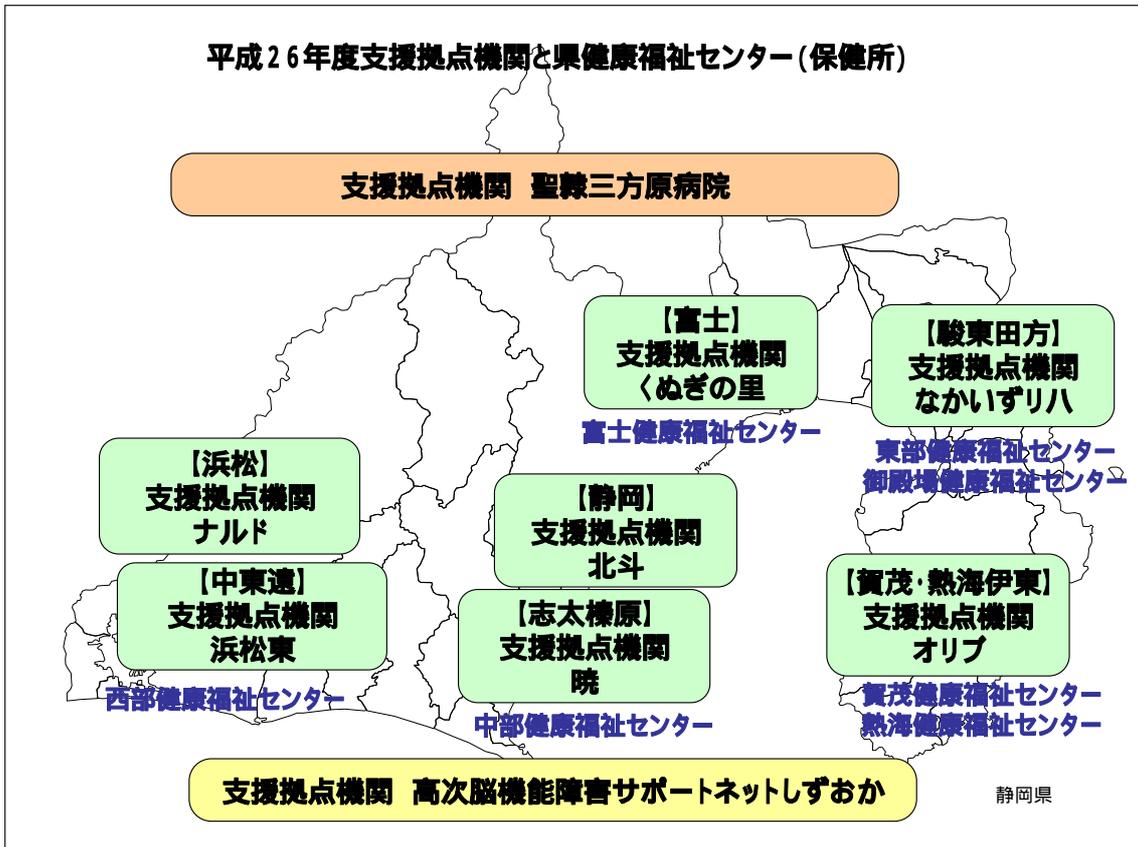


静岡県 平成 24 ~ 26 年度実績報告

| | 圏 域 名 | 支 援 拠 点 機 関 | 設置年度等 |
|----------------------------|-----------|-------------------------------|--------------------------------|
| 支 援 拠 点 機 関 | 賀茂・熱海伊東圏域 | オリブ | 平成 23 年度 ~ *1 |
| | 駿東田方圏域 | 障害者生活支援センターなかいずりハ | 平成 24 年度 ~ *1 |
| | 富士圏域 | 障害者生活支援センターくぬぎの里 | 平成 19 年度 ~ *1 |
| | 静岡圏域 | サポートセンターコンパス北斗 | 平成 23 年度 ~ *1 |
| | 志太榛原圏域 | 相談支援事業所暁 | 平成 21 年度 ~ (H24 年度を除く)*1 |
| | 中東遠圏域 | 浜松東 | 平成 26 年度 ~ *1 |
| | 浜松圏域 | ナルド | 平成 23 年度 ~ *1 |
| | 県全体 | 聖隷三方原病院 高次脳機能障害サポートネットしずおか | 平成 22 年度 ~ *2 平成 19 年度 ~ *3 |

*1 相談支援事業所 *2 医療機関 *3 当事者家族を含む団体



事業概要

| 項目 | 事業の概要 |
|-------------------|--|
| 支援拠点の設置 | 各地域を担当する相談支援事業所及び県全体を対象地域とする病院及び当事者団体を支援拠点とし、支援コーディネーターを配置し、地域の相談支援を行うとともに、関係機関との地域支援のネットワークづくりやケース検討会等を行った。 |
| 医療等総合相談事業 | 県健康福祉センター（保健所）において、リハビリテーション科等の専門医師、ソーシャルワーカー、作業療法士、保健師、支援コーディネーター、家族会の代表等による相談会を実施し、疾病の理解や日常生活、リハビリテーションへの助言を行った。 |
| 支援従事者研修 | 高次脳機能障害の理解を深め、支援の資質向上を図るため、県内の関係医療機関、福祉施設、健康福祉センター、市町村等の職員支援コーディネーター等を対象に研修会を実施した。 |
| 普及啓発 | 高次脳機能障害に関する正しい知識の普及及び情報提供のためのポスターやパンフレット等を作成し関係機関に配布した。 |
| 事業検討専門家委員会 | 高次脳機能障害者支援施策の方向性や実施方法、評価等についての検討を行った。 |
| 支援コーディネーター連絡会・研修会 | 支援コーディネーターが高次脳機能障害者支援にかかる情報を共有し、意見を交換・検討することにより、支援コーディネーターの資質の向上を図るため、連絡会及び研修会を行った。 |

| 内容（実施主体） | | H24 年度 | H25 年度 | H26 年度 | |
|----------------------------|-----------|--------|--------|--------|-----|
| 支援拠点機関相談数 （支援拠点機関） | 来所（件） | 1,315 | 978 | 1,194 | |
| | 訪問（件） | 937 | 874 | 780 | |
| | 連絡等（件） | 2,296 | 2,400 | 1,952 | |
| 支援拠点機関連携数 （支援拠点機関） | 来所（件） | 60 | 112 | 60 | |
| | 訪問（件） | 88 | 247 | 316 | |
| | 連絡等（件） | 711 | 803 | 1,601 | |
| 支援拠点機関 （主催） | 連絡会・協議会 | 回数（回） | 11 | 9 | 25 |
| | 研修会・講習会 | 回数（回） | 13 | 7 | 20 |
| | ケース会議・勉強会 | 回数（回） | 159 | 106 | 120 |
| 医療等総合相談 （県健康福祉センター・保健所） | 回数（回） | 20 | 18 | 18 | |
| | 参加者数（人） | 59 | 40 | 52 | |
| 支援従者研修 （県健康福祉センター・保健所） | 回数（回） | 7 | 6 | 6 | |
| | 参加者数（人） | 492 | 452 | 325 | |
| 支援従者研修 （拠点） | 回数（回） | 2 | 2 | 2 | |
| | 参加者数（人） | 309 | 135 | 253 | |
| 事業検討専門家委員会 | 回数（回） | 2 | 2 | 2 | |
| 支援コーディネーター連絡会 | 回数（回） | 3 | 3 | 3 | |
| 支援コーディネーター研修 （事例検討会） | 回数（回） | | 2 | 2 | |

今後の課題

1 医療機関での障害の見落としの予防

現在、医療機関を中心としたポスターから相談窓口などに結びつくケースが増え、啓発活動に一定の効果を認める一方、まだ、医療機関などで十分な評価や説明がなく、後になって障害が問題となって相談を受けるケースも散見される。

このため今後も引き続き医療機関での障害の見落としをなくし、受傷後早期の対応及び訓練が行われるよう、全県及び地域ごとに研修会を実施し、医療従事者の障害理解を進める。

2 支援従事者、一般県民の障害理解のための継続的な啓発

マスコミに取り上げられることで、一定の啓発効果が期待されている一方、支援に関わる福祉施設・企業・学校などでの理解が十分浸透されず、その都度支援に苦慮するケースが散見される。

今後も支援従事者、当事者家族、一般県民に対する啓発や研修等を継続し、障害の理解を促進し適切な支援に繋げる。

3 関係機関による地域支援ネットワークづくり

場当たりのであった支援の流れも、各種勉強会などを通して多職種との顔の見える支援ができつつあるが、それぞれの連携に活用できるツールや当事者の情報を共有できる手帳の必要性など、他県で実施しているものの導入についての取り組みは進んでいない。

診断・評価に基づき連続したケアが身近な地域でできるよう、支援拠点機関を中心に据えた地域支援ネットワークづくりを進める。特に医療機関との連携について、情報把握に努め、具体的な相談がし合えるよう関係作りをし、またそのシステムについて検討していく。

4 支援の地域間格差の解消にむけた取り組み

当県は多くの支援拠点機関とそれぞれに配置した支援コーディネーターの関わりにより地域に根ざした支援ができているが、支援拠点の諸事情により適宜拠点が変更することにより、支援コーディネーターの質が担保されてこなかった状況が課題となっていた。そのため昨年度より支援コーディネーター研修の充実を図ってきたが、まだ一定の効果は実感できていない。

そのため、今後も支援従事者の研修や情報交換等を健康福祉センター単位で実施する。支援コーディネーターの研修を事例検討や外来見学等を含めて充実して実施する。さらには、当県独自のマニュアル作りなど基本的業務内容の明文化を図りつつ、支援コーディネーターの資質の向上を図ることにより支援の地域間格差の解消をめざす。

岐阜県 平成 24～26 年度報告

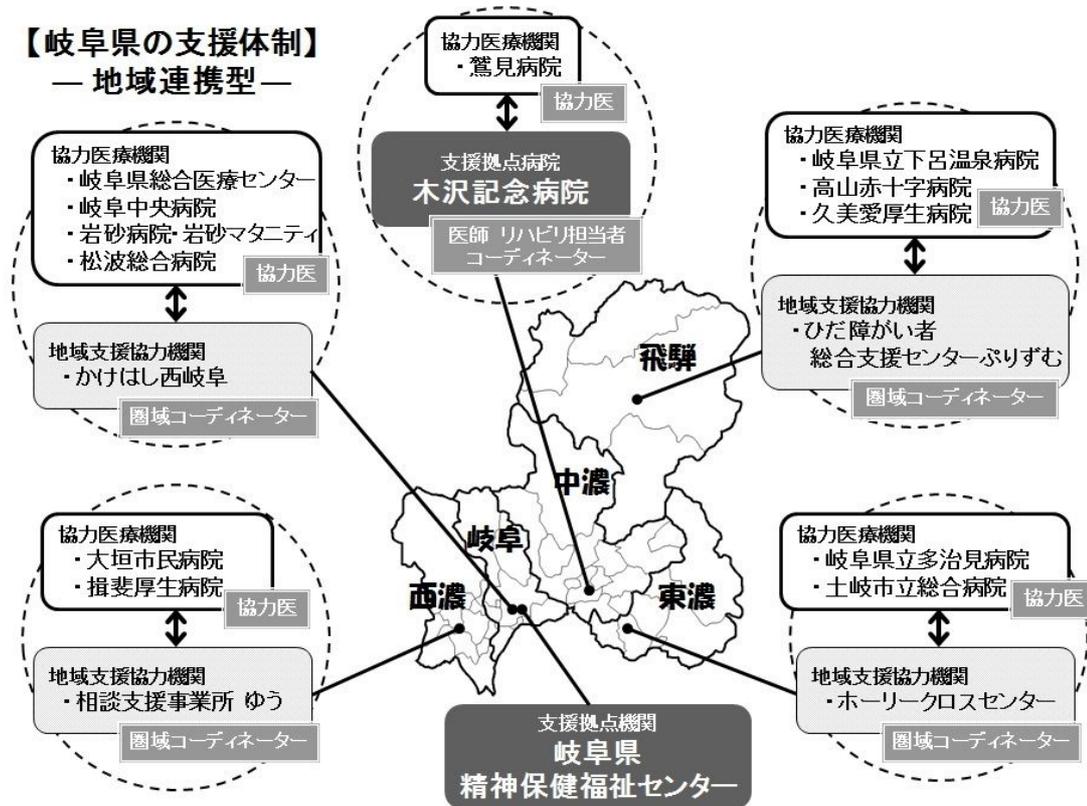
1. 支援体制

支援拠点機関：岐阜県精神保健福祉センター

支援拠点病院：社会医療法人厚生会 木沢記念病院

* 支援コーディネーター：1名 支援拠点病院に配置

* 支援体制：圏域ごとの支援体制の整備を推進しており、県として、平成 24 年 1 月に協力医療機関 12ヶ所と地域支援協力機関 4ヶ所を指定(別図参照)。地域支援協力機関に圏域コーディネーターが所属。



2. 相談件数等の実績

| 年度 | 24 | 25 | 26 |
|-----------------|-----|-----|-----|
| (1) 拠点機関相談数 (件) | | | |
| 来所 | 98 | 77 | 84 |
| 訪問 | 25 | 24 | 22 |
| 電話連絡等 | 91 | 50 | 95 |
| (2) 拠点機関連携数 (件) | | | |
| 来所 | 1 | 0 | 3 |
| 訪問 | 3 | 0 | 3 |
| 電話連絡等 | 253 | 116 | 137 |

| | | | |
|--------------------|----|---|---|
| (3) 連絡会・協議会 (回) | | | |
| 主催 | 3 | 2 | 6 |
| 講師等協力 | 6 | 5 | 6 |
| (4) 研修会・講習会 (回) | | | |
| 主催 | 4 | 4 | 4 |
| 講師等協力 | 15 | 2 | 2 |
| (5) ケース会議・勉強会等 (回) | | | |
| 主催 | 4 | 5 | 7 |
| 講師等協力 | 5 | 0 | 2 |

3. 活動実績

【平成 24 年度】

(1) 高次脳機能障害支援対策推進委員会

今年度は平成 25 年 2 月 20 日に開催。各事業内容を報告し、来年度の計画について検討した。

(2) 協力医療機関等ネットワーク会議

圏域ごとに指定した協力医療機関・地域支援協力機関の関係者が集まり、情報交換や研修を行う場 = ネットワーク会議を新たに設置した。平成 24 年 4 月に全体会議として全圏域の機関合同で行い、その後は近隣圏域の機関が集まる会を平成 24 年 9 月・11 月に 2 回開催した。初年度であった平成 24 年度は、障害や制度についての講義や拠点病院のコーディネーターからの事例紹介などを行った。

(3) 圏域相談支援コーディネーターの養成

平成 22 年度から開始した、高次脳機能障害圏域相談支援コーディネーター養成事業を継続した。県内 4 圏域、各 1 ヶ所ずつの事業所・各 1 名ずつの職員に対して、平成 24 年度まで 3 年間、研修を行い、圏域ごとの支援コーディネーターの養成を行った。平成 24 年度は、三重県の支援拠点機関の見学を行った他、各圏域コーディネーターが昨年度までに未参加だった研修(国リハの研修会、障害者職業センターの見学研修)に参加した。平成 25 年 2 月の支援コーディネーター全国会議にも参加した。また、拠点病院のコーディネーターが把握したケースを居住地の圏域コーディネーターに連絡し、地域での支援について、一緒に考え、圏域コーディネーターに直接ケースに関わってもらうようにした。さらに、近隣圏域で開催したネットワーク会議や研修会において、圏域コーディネーターが各自の施設紹介を行った。

(4) 相談支援

相談支援は支援拠点機関・支援拠点病院・当事者通所施設で実施した。相談件数は前記したとおりである。内訳を検討すると、面接相談は支援拠点機関・支援拠点病院・当事者通所施設ともに前年度比で横ばいだったが、拠点病院への電話やメールでの相談・他機関との連携の件数は前年度までに比べて大幅に増加した。この増加の要因としては、他県の支援拠点機関からの紹介・受診調整、障害者職業センターや県内各圏域コーディネーターとの連携などが考えられる。

(5) 普及啓発活動

平成 24 年度はリーフレットを改訂し、新たに協力機関を掲載した。また、県内各地で下記の研修会を実施した。研修会は、協力医療機関等ネットワーク会議と連動するように、開催場所・時期を工夫した。内容は、外部講師を招いての講演で普及啓発を行った

他、事業や支援体制の整備状況の報告をし、県内各圏域コーディネーターが各自の施設紹介を行った。リーフレットや研修会の情報については支援拠点機関のホームページに掲載した。さらに、記した以外の県内外の研修会等でも、支援拠点病院の医師が講師として高次脳機能障害に関する知識の普及に努めた。

【平成 24 年度開催の研修会】

| | |
|--|---|
| 高次脳機能障がい 普及啓発研修会 ＜飛騨地域＞ H24.10.13 | 主催：精神保健福祉センター 場所：丹生川文化ホール 参加者数：46名 講師・内容：神奈川県総合リハビリテーションセンター 青木重陽氏 『高次脳機能障がいの理解と支援』 |
| 高次脳機能障がい 普及啓発研修会 ＜岐阜地域＞ H24.12.12 | 主催：精神保健福祉センター 場所：岐阜県福祉農業会館 参加者数：63名 講師・内容：聖隷三方原病院 片桐伯真氏 『地域でのサービス・関係機関の連携 ～地域に根ざした支援の成果と課題～』 |
| 岐阜 高次脳機能障がい フォーラム H25.1.26 | 主催 第1部：精神保健福祉センター 第2部：損害保険協会助成 場所：ふれあい福寿会館 参加者数：172名 講師・内容： 第1部；国立障害者リハビリテーションセンター 中島八十一氏 『高次脳機能障害支援普及事業の現状と展望』 第2部；千葉県千葉リハビリテーションセンター 太田令子氏 『‘この人’の支援に生かせるネットワーク作り』 パラリンピック自転車競技日本代表 石井雅史氏夫妻 『夫婦で歩んだパラリンピックまでの道のり～夢をあきらめない～』 |

【平成 25 年度】

(1)支援体制の整備

圏域ごとに指定した協力医療機関・地域支援協力機関の関係者が集まり、情報交換や研修を行う場として、平成 24 年度に協力医療機関等ネットワーク会議を設置し、今年度も継続した。平成 25 年度は全体会議として全 5 圏域合同で行った。第 1 回は平成 25 年 6 月 4 日に開催し、福祉制度等の説明や、生活訓練や MTBI についての講習を行った。第 2 回は平成 26 年 2 月 4 日に開催し、地域支援協力機関と協力医療機関が関わったケースの報告を行い、圏域コーディネーターや協力医が事例発表者となって、現在の課題や対応法を話し合った。

支援対策推進会議は県保健医療課が事務局を担当し、平成 26 年 2 月 19 日に開催した。ここでは、協力医療機関の受診や、各圏域内の支援機関同士の連携を促進するために、会議にはできる限り担当医に参加してもらい、医師に興味を持ってもらいやすい学術的な内容を取り入れる。全体会議後に圏域ごとに集まる時間を設けるなどの具体的な案も出された。

(2)相談支援

支援拠点機関のコーディネーターとしては、平成 24 年度までと同様に支援拠点機関 2 ヶ所と家族会運営の通所施設で相談支援を実施した。拠点機関での来所相談件数、関連機関との連携・連絡件数は減少した。

また、平成 22～24 年度に実施した、高次脳機能障害圏域相談支援コーディネーター養成事業が終了し、平成 25 年度は圏域コーディネーターが相談支援を積極的に行うようにした。先に挙げた拠点機関の相談件数以外に、圏域コーディネーターが受けた相談件数は、下の表に示すとおりであった。各圏域の件数を平成 24 年度と比べてみると、新規相談件数は微増か横ばい、延べ相談件数は大幅に増加していた。拠点機関のコーディネーターの関与がなく、圏域コ

ーディネーターに直接相談されるケースも出てきた。これらの相談件数の変化から、これまで拠点機関で対応していたケースが居住圏域で相談されるようになってきていることが推測される。圏域コーディネーターは地域の福祉施設等の情報をよく把握しており、受診や利用施設への同行や訪問もしやすいことから、拠点機関のコーディネーターより、より適切で丁寧な支援ができると期待される。

その他、コーディネーター同士が継続的に学習・情報共有を行うために、圏域支援コーディネーター会議を設け、3ヶ月に1回、交代でケースを挙げて意見交換している。

【平成 25 年度 圏域支援コーディネーターへの相談件数】

| | 新規相談件数 | 延べ相談件数 |
|-----|--------|--------|
| 岐 阜 | 36 | 74 |
| 西 濃 | 7 | 210 |
| 東 濃 | 6 | 120 |
| 飛 騨 | 7 | 983 |
| 合 計 | 56 | 1387 |

(3)普及啓発

平成 25 年 9 月・11 月の研修会は、行政や福祉施設の職員向けに実施した。講師の講演以外に、会場地域の圏域コーディネーターが実際の相談ケースを紹介した。また、市町村等にポスターを配布して掲示を依頼した。これにより、行政窓口から紹介されて相談につながるケースが出てきた。その他、岐阜県精神保健福祉センターホームページにはリーフレットや講演会情報を掲載し、広報した。

【平成 25 年度開催の研修会】

| | | |
|--|--|---|
| 高次脳機能障がい 普及啓発研修会 <西濃地域> H25.9.20 | 主催：精神保健福祉センター 場所：大垣市情報工房 参加者数：35 名 | 講師・内容： 岐阜医療科学大学 阿部順子氏 『高次脳機能障がいの理解と対応』 NHK 厚生文化事業団制作の DVD 視聴 圏域コーディネーターからの事例報告 * 同じ内容で 2 回開催 |
| 高次脳機能障がい 普及啓発研修会 <東濃地域> H25.11.29 | 主催：精神保健福祉センター 場所：多治見市文化会館 参加者数：31 名 | |
| 岐阜 高次脳機能障がい フォーラム H26.1.25 | 主催 第 1 部：精神保健福祉センター 第 2 部：損害保険協会助成 場所：各務原市産業文化センター 参加者数：176 名 講師・内容： 第 1 部：木沢記念病院 池戸友梨氏・田本織江氏 『リハビリスタッフが考える高次脳リハ』 岐阜医療科学大学 阿部順子氏 『高次脳機能障害者の生活訓練』 第 2 部：東京慈恵会医科大学附属第三病院 渡邊 修氏 『高次脳機能障害のリハビリテーション』 NPO 法人脳外傷友の会みずほ前副理事長 尾山芳子氏 『自立への支援』 | |

【平成 26 年度】

(1)支援体制の整備

平成 24 年度に設置したネットワーク会議を平成 26 年度も継続した。平成 26 年度は各圏域内での連携強化や関係づくりを目的とし、まず、平成 26 年 10 月に圏域ごとに延べ 4 回開催した。圏域コーディネーターからの事例紹介や、各医療機関の患者受け入れ体制の確認を通じて、活発な意見交換ができた。その後、12 月に全体会として、圏域ごと

の会のまとめと外部講師による研修会を行った。

支援対策推進会議は県保健医療課が事務局を担当し、平成27年2月16日に開催した。岐阜県精神科病院協会会長をこの会議の委員に加え、精神科医療との連携について意見交換がされた。それぞれの立場から、現状や課題、考えられる対策について意見が出され、新しく就任した精神科医からは、『精神科医は器質性疾患があると躊躇するが、薬を使わざるを得ないケースはなるべく早くから関わられるほうがよい』、『精神科受診を促すときには“脳機能としてこの症状はありうる”“認知症も精神科の対象である”“高次脳のことを知っている他の医師のところへも受診してみよう”などの説明の仕方が有効かもしれない』といった意見が出された。

(2)相談支援

支援拠点機関のコーディネーターは、前年度までと同様に支援拠点機関と家族会の通所施設で相談支援を実施した。拠点機関での来所相談件数は微増、関連機関との連携・連絡件数は3割ほど増加した。

平成22～24年度に実施した、高次脳機能障害圏域相談支援コーディネーター養成事業後、今年度も圏域ごとの相談支援を推進した。先に挙げた拠点機関の相談件数以外に、圏域コーディネーターが受けた相談件数は、下の表に示すとおりであった。各圏域の件数を前年度と比べてみると、新規相談件数は微増が同数の圏域が多く、飛騨圏域では増加していた。延べ相談件数は増加した圏域が多く、特に西濃圏域で増加割合が高かった。また、拠点病院で精査・診断したケースは、居住圏域のコーディネーターにその後の支援を依頼することにしており、これも反映して、コーディネーター同士の連携回数や、拠点病院の延べ相談件数が前年度より増加していた。

なお、コーディネーター同士が継続的に学習・情報共有を行うために、圏域支援コーディネーター会議を3ヶ月に1回、定期的に行っている。

【平成26年度 圏域支援コーディネーターへの相談件数】()内は前年度の件数

| | 新規相談件数 | 延べ相談件数 |
|-----|---------|-------------|
| 岐 阜 | 37 (36) | 127 (74) |
| 西 濃 | 9 (7) | 349 (210) |
| 東 濃 | 6 (7) | 102 (120) |
| 飛 騨 | 17 (7) | 1113 (983) |
| 合 計 | 69 (56) | 1691 (1387) |

(3)普及啓発

平成26年9月の研修会には、就労支援事業所その他、居宅介護事業所からの参加者も多く、ケアマネージャーやヘルパーも関心を持っていることがうかがえた。12月の研修会は、ネットワーク会議内でその一環として協力医療機関向けに開催した。その他、リーフレットの一部情報を改訂し、増刷した。岐阜県精神保健福祉センターホームページにはリーフレットや講演会情報を掲載し、広報した。

【平成26年度開催の研修会】

| | | |
|---------------------------------|---|--|
| 高次脳機能障がい 普及啓発研修会 H26.9.24 | 主催：精神保健福祉センター 場所：瑞穂市総合センター 参加者数：71名 | 講師・内容： 三軒茶屋リハビリテーションクリニック 長谷川 幹氏 『高次脳機能障がいの改善の鍵は地域』 |
|---------------------------------|---|--|

| | | |
|--|---|--|
| <p>岐阜県 高次脳機能障がい 協力医療機関等 ネットワーク会議 研修会 H26.12.16</p> | <p>主催：精神保健福祉センター 場所：中部療護センター 参加者数：46名</p> | <p>講師・内容： 九州労災病院門司メディカルセンター 蜂須賀研二氏 『高次脳機能障害の診断に難渋した事例』</p> |
| <p>岐阜 高次脳機能障がい フォーラム H27.1.31</p> | <p>主催 第1部：精神保健福祉センター 第2部：損害保険協会助成 場所：県民ふれあい福寿会館 参加者数：171名 講師・内容： 第1部：えんしゅう生活支援 net 建木良子氏 『医療から就労へ～えんしゅう生活支援 net の実践』 岐阜大学応用生物科学部 大場伸哉氏 岐阜県高次脳機能障害当事者 久世拓史氏 『岐阜大学農場における障害者雇用の取り組み』 第2部：NPO 法人日本脳外傷友の会 東川悦子氏 『日本脳外傷友の会のこれまでとこれから』 愛媛県高次脳機能障害当事者・家族 園部香代子氏・眞理子氏 『今を忘れない』</p> | |

4. 研究発表

【平成24年度】

(1) 学会発表

1. 伊東慶一, 竹中俊介, 米澤慎悟, 秋 達樹, 浅野好孝, 篠田 淳: 頭部外傷後の高次脳機能障害診断に対する FDG-PET と ECD-SPECT の有用性. 第 49 回日本リハビリテーション医学会学術集会. 福岡市, 2012, 5.31-6.2
2. 豊島義哉, 池場亜美, 池戸友梨, 酒井那実, 嶽 和香奈, 永瀬可奈子, 中根千恵, 浅野好孝, 篠田 淳, 岩間 亨: 遷延性意識障害から脱却した重症びまん性脳外傷患者でみられる特異な発語障害. 第 21 回日本意識障害学会. 富士吉田市, 2012.7.6-7
3. 和田哲也, 浅野好孝, 松本 優, 幅 拓矢, 糟谷幸徳, 篠田 淳: 軽度外傷性脳損傷患者における精神機能と DTI (FA) との関係. 第 21 回日本意識障害学会. 富士吉田市, 2012.7.6-7
4. 田原香里, 槇林 優, 森 美香, 浅野好孝, 篠田 淳: 基本動作能力が向上した高次脳機能障害・四肢体幹運動障害を呈する頭部外傷の一例. 第 21 回日本意識障害学会. 富士吉田市, 2012.7.6-7
5. 石塚雅隆, 槇林 優, 酒向圭介, 井戸厚実, 篠田 淳, 浅野好孝: 情動・行動障害改善に応じた治療方針の評価・再考・導入が有効だった頭部外傷の一症例. 第 21 回日本意識障害学会. 富士吉田市, 2012.7.6-7
6. 浅野好孝, 伊東慶一, 米澤慎悟, 秋 達樹, 三輪和弘, 伊藤 毅, 横山和俊, 篠田 淳: 軽度外傷性脳損傷患者の白質損傷と高次脳機能障害との関係 - TBSS による FA 解析 -. 第 71 回日本脳神経外科学会総会. 大阪市, 2012.10.17-19
7. 田本織江, 吉池佳代, 日置麗加, 井戸宏美, 吉田愛菜, 槇林 優, 浅野好孝, 篠田 淳: びまん性軸索損傷により情動障害を呈した症例への指示入力方法の検討. 第 28 回岐阜県病院協会医学会. 羽島市, 2012.10.21

(2) 講演

1. 篠田 淳 (特別講演): 脳のどこが損傷されると遷延性意識障害・高次脳機能障害になるのでしょうか? 交通事故被害者家族ネットワーク無料法律相談特別講演会. 美濃加茂市, 2012.4.21
2. 篠田 淳 (教育講演): 軽度外傷性脳損傷の画像診断. 第 11 回日本リハビリテーション心理職会研修会. 横浜市, 2012.6.9

3. 篠田 淳(指定講演・パネルディスカッション): 交通外傷によるびまん性軸索損傷評価のための最新画像. 第48回日本交通科学協議会学術講演会. つくば市, 2012.6.21-22
 4. 篠田 淳(教育講演): 高次脳機能障害の画像診断. 第21回日本意識障害学会. 富士吉田市, 2012.7.6-7
 5. 秋 達樹(教育講演): 知っておいて欲しい頭部外傷の初期診療. 平成24年度第3回研修医のための岐阜脳神経セミナー. 岐阜市, 2012.7.27
 6. 篠田 淳(教育講演): 頭部外傷後高次脳機能障害. 第2回交通事故後遺症認定実務者講座弁護士講習会. 東京, 2012.10.8
 7. 伊東慶一, 米澤慎悟, 浅野好孝, 篠田 淳(シンポジウム): 交通事故による慢性期軽度外傷性脳損傷患者の脳損傷部位と高次脳機能障害. 第71回日本脳神経外科学会総会. 大阪市, 2012.10.17-19
 8. 篠田 淳(指定講演・シンポジウム): 高次脳機能障害の画像診断とMTBI. 日本賠償科学会第61回研究会. 東京, 2012.12.1
 9. 篠田 淳(教育講演): 高次脳機能障害の診断. 平成24年度岐阜県脳障害リハビリテーション研究会第12回研修会. 美濃加茂市, 2012.12.8
 10. 篠田 淳(教育講演): 高次脳機能障害 - 特に外傷性脳損傷による高次脳機能障害について -. 教育セミナー. 第36回日本脳神経外傷学会. 名古屋市, 2013.3.8-9
 11. 篠田 淳(特別講演): 頭部外傷後高次脳機能障害の画像診断と軽度外傷性脳損傷. 平成24年度岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業「高次脳機能障がい者支援研修会」盛岡市, 2013.3.12
- (3)書籍・雑誌
別に記載

【平成25年度】

(1)学会発表

1. Shinoda J, Itou K, Asano Y, Miwa K, Aki T, Yonezawa S: Differences in brain metabolism impairments between chronic mild/moderate TBI patients with and without visible brain lesions on MRI. The 81st Annual Meeting of the American Association of Neurological Surgeons (AANS), New Orleans, 2013.4.28-5.1
2. Shinoda J, Asano Y, Miwa K, Yonezawa S, Nomura Y, Itou K: Chronic radiological abnormalities in patients with mild traumatic brain injury. The 10th World Congress on Brain Injury of the International Brain Injury Association. San Francisco, 2014.3.19-22
3. Matsumoto J, Yonezawa S, Nishiyama N, Okumura R, Fukuyama S, Kanematsu Y, Nomura Y, Asano Y, Shinoda J: Acupuncture treatment increases motor evoked potentials induced by using transcranial magnetic stimulation in patients with chronic disorder of consciousness following severe traumatic brain injury. The 10th World Congress on Brain Injury of the International Brain Injury Association. San Francisco, 2014.3.19-22
4. 山田裕一, 奥村竜司, 福山誠介, 松本 淳, 浅野好孝, 篠田 淳: 遷延性意識障害患者への鍼治療と99Tc-ECD脳血流SPECTの定量値との関係. 第22回日本意識障害学会. 秋田市, 2013.7.26-27
5. 伊東慶一, 野村悠一, 米澤慎悟, 浅野好孝, 篠田 淳: 交通事故による慢性期軽度外傷性脳損傷患者の脳損傷部位と高次脳機能障害. 第22回日本意識障害学会. 秋田市, 2013.7.26-27
6. 澤村彰吾, 大坪綾菜, 榎林 優, 森 美香, 浅野好孝, 篠田 淳: 表出方法の工夫により、コミュニケーションが拡大した頭部外傷の一症例. 第22回日本意識障害学会. 秋田市, 2013.7.26-27

7. 松本 淳, 米澤慎悟, 野村悠一, 西山紀郎, 兼松由香里, 浅野好孝, 篠田 淳: 頭部外傷後遷延性意識障害患者の筋緊張亢進に対する鍼治療 - 電気生理学的検討 - . 第22回日本意識障害学会. 秋田市, 2013.7.26-27
8. 松本 淳, 米澤慎悟, 西山紀郎, 兼松由香里, 野村悠一, 浅野好孝, 篠田 淳: 頭部外傷後遷延性意識障害患者に対する鍼治療 - 電気生理学的評価を行った2症例 - . 第3回日本中医学学会学術総会. 東京, 2013.9.14-15
9. 伊東慶一, 野村悠一, 米澤慎悟, 浅野好孝, 篠田 淳: 慢性期外傷性脳損傷に対するFDG-PETによる評価. 第72回日本脳神経外科学会総会. 横浜, 2013.10.16-18
10. 浅野好孝, 伊東慶一, 野村悠一, 米澤慎悟, 三輪和弘, 伊藤 毅, 横山和俊, 篠田 淳: 鞭打ち損傷による軽度外傷性脳損傷の検討. 第 72 回日本脳神経外科学会総会. 横浜, 2013.10.16-18
11. 河村章史, 伊東慶一, 篠田 淳: 慢性期軽度外傷性脳損傷患者の脳血流低下と神経心理学検査成績の関連 - SPECT のための統計解析処理ソフトウェアを用いて - . 第 5 回日本ニューロリハビリテーション学会. 東京, 2014.2.15

(2) 講演

1. 篠田 淳 (指定講演・プレナリーセッション): 高次脳機能障害を引き起こす外傷性脳損傷の画像評価. 第 33 回日本脳神経外科コンgres総会. 大阪市, 2013.5.10-12
2. 篠田 淳 (特別講演): 外傷性脳損傷慢性期の障害 - 遷延性意識障害と高次脳機能障害 - . 平成 25 年交通事故被害者家族ネットワーク千葉県支援集会. 千葉市, 2013.5.25
3. 篠田 淳 (教育講演): 意識と意識障害の基礎知識. 第 4 回看護学生のためのやさしい脳神経看護講座. 美濃加茂市, 2013.6.29
4. 篠田 淳 (指定講演・シンポジウム): 慢性期軽度意識障害評価スケール開発へのアプローチ - 病態生理学からのアプローチ - . 第 22 回日本意識障害学会. 秋田市, 2013.7.26-27
5. 浅野好孝 (特別講演): 高次脳機能障害と神経画像. 第 16 回 Gifu Nuclear Technology Club. 岐阜市, 2013.9.4
6. 篠田 淳 (教育講演): リハに役立つ画像診断法 - 高次脳機能障害に関係する頭部外傷の慢性期の画像診断 - . 第 36 回静岡リハビリテーション医学会 (日本リハビリテーション医学会中部・東海地方会専門医・認定医臨床医生涯教育研修会). 静岡市, 2013.9.14
7. 篠田 淳 (特別講演): 高次脳機能障害の診療と岐阜県の状況について. 飛騨保健所生活習慣病医療連携推進事業. 第 5 回地域脳卒中連携研修会. 高山市, 2013.9.19
8. 篠田 淳 (教育講演): 交通事故による高次脳機能障害. 脳外傷友の会みずほ・高次脳機能障害者家族を支援する会「サークル虹」平成25年度高次脳機能障害支援研修会. 刈谷市, 2014.2.23

(3) 書籍・雑誌

別に記載

【平成 26 年度】

(1) 学会発表

1. 河村章史, 宇津山志穂, 伊東慶一, 浅野好孝, 篠田 淳: 慢性期軽度外傷性脳損傷患者の脳血流低下と神経心理学検査成績の関連 - SPECT のための統計解析処理ソフトウェアを用いて - . 第71回岐阜臨床神経集談会. 岐阜市, 2014.6.5
2. 篠田 淳 (シンポジウム): 遷延性意識障害患者の脳画像評価. 第 23 回日本意識障害学会. 札幌市, 2014.8.22-23
3. 池亀由香, 浅野好孝, 野村悠一, 米澤慎悟, 篠田 淳: 安静時 functional MRI を用いた頭部外傷後遷延性意識障害症例の脳の機能的結合の検討. 第 23 回日本意識障害学会. 札幌

- 市, 2014.8.22-23
4. 浅野好孝, 池亀由香, 野村悠一, 米澤慎悟, 篠田 淳: 重症頭部外傷後遷延性意識障害患者の白質損傷の定量的評価. 第 23 回日本意識障害学会. 札幌市, 2014.8.22-23
 5. 米澤慎悟, 松本 淳, 野村悠一, 池亀由香, 西山紀郎, 兼松由香里, 浅野好孝, 篠田 淳: 頭部外傷後遷延性意識障害患者に対する鍼治療による運動誘発電位の増加効果. 第 23 回日本意識障害学会. 札幌市, 2014.8.22-23
 6. 松本 淳, 米澤慎悟, 野村悠一, 池亀由香, 西山紀郎, 兼松由香里, 浅野好孝, 篠田 淳: 鍼治療が有用であった頭部外傷後遷延性意識障害患者 2 症例. 第 23 回日本意識障害学会. 札幌市, 2014.8.22-23
 7. 中村千恵, 酒井那実, 加藤玲子, 村川孝彰, 伊藤純一, 池場亜美, 槇林 優, 浅野好孝, 篠田 淳: 携帯電話の音声認識機能を用いて構音訓練を行った頭部外傷後遷延性意識障害患者の一例. 第 23 回日本意識障害学会. 札幌市, 2014.8.22-23
 8. 奥村由香, 金高織江, 東 和歌奈, 石川明奈, 田原香里, 槇林 優, 浅野好孝, 篠田 淳: 意識障害患者の意思表示の向上を目的に上肢運動と認知機能を刺激した楽器活動について. 第 23 回日本意識障害学会. 札幌市, 2014.8.22-23
 9. 大塚誠士, 岩井 歩, 田原香里, 森 美香, 伊藤純一, 横山奈美, 槇林 優, 浅野好孝, 篠田 淳: 頭部外傷後遷延性意識障害患者における肺炎罹患状況 - 経時的調査と発生要因の検討 -. 第 23 回日本意識障害学会. 札幌市, 2014.8.22-23
 10. 浅野さつき, 兼松由香里, 石山光枝, 浅野好孝, 篠田 淳: 摂食・嚥下訓練が遷延性意識障害患者の意識賦活に及ぼす効果について. 第 23 回日本意識障害学会. 札幌市, 2014.8.22-23
 11. 田中陽子, 兼松由香里, 浅野好孝, 篠田 淳 (シンポジウム): 遷延性意識障害者家族の精神的負担を軽減するために有効な相談支援のあり方の検討. 第 23 回日本意識障害学会. 札幌市, 2014.8.22-23
 12. 池亀由香, 浅野好孝, 野村悠一, 米澤慎悟, 篠田 淳: 頭部外傷後遷延性意識障害における安静時 functional MRI による脳の機能的結合の解析. 第 73 回日本脳神経外科学会総会. 東京, 2014.10.9-11
 13. 浅野好孝, 池亀由香, 伊東慶一, 野村悠一, 米澤慎悟, 伊藤 毅, 横山和俊, 篠田 淳: 頭部外傷後遷延性意識障害症例の白質損傷の定量的評価. 第 73 回日本脳神経外科学会総会. 東京, 2014.10.9-11
 14. 伊東慶一, 野村悠一, 米澤慎悟, 池亀由香, 浅野好孝, 篠田 淳: Differences in brain metabolism impairments between chronic mild/moderate TBI patients with and without visible brain lesions on MRI. 第 72 回岐阜臨床神経集談会. 岐阜市, 2014.11.20
 15. 池亀由香, 浅野好孝, 野村悠一, 岡田 誠, 伊藤 毅, 横山和俊, 篠田 淳: 頭部外傷後遷延性意識障害における安静時 functional MRI による脳の機能的結合の解析. 第 72 回岐阜臨床神経集談会. 岐阜市, 2014.11.20
 16. 奥村由香, 金高織江, 石川明奈, 田原香里, 槇林 優, 浅野好孝, 篠田 淳: キーボードを用いてポジショニング動作を支援した最少意識状態の症例. 第 8 回日本音楽医療研究会学術集会. 京都市, 2015.1.11
 17. 加藤玲子, 奥村由香, 中村千恵, 槇林 優, 浅野好孝, 篠田 淳: 構音運動と意欲を刺激した音楽活動 - 重症頭部外傷患者の一事例 -. 第 8 回日本音楽医療研究会学術集会. 京都市, 2015.1.11
 18. 野村悠一, 池亀由香, 浅野好孝, 篠田 淳: 11C-MeNER-PET を用いた遷延性意識障害患者における NET イメージングについて. 平成 27 年岐阜脳神経外科カンファランス. 岐阜市, 2015.1.25
 19. 池亀由佳: 外傷性脳損傷におけるアミロイドの影響について. 第 7 回国際核医学フォー

ラム. 下呂市, 2015.3.21-22

- 20.野村悠一: 11C-MeNER-PET を用いた遷延性意識障害患者における NET イメージングについて. 第7回国際核医学フォーラム. 下呂市, 2015.3.21-22

(2)講演

1. 篠田 淳 (指定講演): 皆様ご存知ですか? - 最新画像で脳はどこまでわかるか? -. 第23回日本意識障害学会記念市民公開講座. 札幌市, 2014.8.22-23
2. 篠田 淳 (特別講演): 外傷性脳損傷後の遷延性意識障害の画像評価. 平成26年交通事故被害者家族ネットワーク被害者家族交流会. 美濃加茂市, 2014.11.16
3. 篠田 淳 (教育講演): 頭部外傷後高次脳機能障害. 医療法人永仁会佐藤病院 平成26年度院内研究会. 江南市, 2015.1.8
4. 篠田 淳 (特別講演): 頭部外傷後高次脳機能障害の診断. 第41回大垣脳と神経懇話会. 大垣市, 2015.2.25

(3)書籍・雑誌

別に記載

5. 今後の課題

(1)精神科医療との連携

社会的行動障害や精神症状により、精神科医療の介入が必要なケースが今年度も見られた。そこで、新たに、精神科病院協会代表に推進会議の委員を委嘱することとし、まず、県の支援体制を知ってもらうため、ネットワーク会議への参加を求めた。このことを足がかりとして、協会所属の他院や精神科医に、障害についての理解や患者受け入れを広げていくことにつなげていけるか。

(2)圏域ごとの支援ネットワークの充実

平成26年度に開催した圏域ごとのネットワーク会議では活発な意見交換がなされ、圏域内のネットワーク作りについて、手ごたえが感じられた。次年度以降は各協力医療機関から事例を提示してもらい、意見交換ができるとうい。また、制度利用や在宅生活の支援が受けやすくなるよう、保健所等の行政機関のネットワーク会議への参加を検討していきたい。個々のケースについての連携やネットワーク会議を通じて、医療から福祉へ、入院生活から在宅生活・社会復帰へ、スムーズにつなげる体制をめざしていく必要がある。

(3)生活訓練や就労支援の場の検討

通所施設の利用以外に、自宅での日常生活の訓練・支援が必要な場合、かつ、家族だけではその支援が足りない場合には、ある程度の期間、集中的に訓練できるとよいが、現状ではそういった施設がない。また、就労支援については障害者職業センターに依頼しているが、センターから離れた地域のケースや、就労までに準備・訓練が必要なケースへの対応がしきれていない可能性が考えられる。これらは、圏域の協力医療機関やコーディネーターだけでは対応困難な部分であり、当県の支援体制の課題である。

(4)圏域内での相談支援機能の補充

全圏域にコーディネーター専任者はいない。相談件数の増加に対応するためには、例えば、障害特性を理解し、圏域コーディネーターと連携した計画相談が可能な事業所・相談支援専門員を増やしていくなどが必要と考えられる。

愛知県 平成 24～26 年度報告

1. 支援体制

- ・支援拠点機関 名古屋市総合リハビリテーションセンター 電話(052)835-3811
- ・支援コーディネーター 3人

2. 拠点機関数値実績

| 年度 | 24 | 25 | 26 |
|-----------------|------|------|------|
| (1) 拠点機関相談数 (件) | | | |
| 来所 | 1689 | 1483 | 1595 |
| 訪問 | 53 | 74 | 43 |
| 電話連絡等 | 583 | 555 | 806 |
| (2) 拠点機関連携数 (件) | | | |
| 来所 | 108 | 106 | 172 |
| 訪問 | 58 | 96 | 92 |
| 電話連絡等 | 404 | 333 | 672 |
| (3) 連絡会・協議会 (回) | | | |
| 主催 | 3 | 3 | 2 |
| 講師等協力 | | 3 | 1 |
| (4) 研修会・講習会 (回) | | | |
| 主催 | 9 | 5 | 1 |
| 講師等協力 | 40 | 29 | 33 |

3. 自立支援法施設数値実績

| 年度 | 24 | 25 | 26 |
|---|---------|---------|---------|
| (1) 自立訓練利用者(人) / 施設入所支援 50 名(うち生活訓練定員 11 名) | | | |
| 利用者 | 122 | 132 | 109 |
| (うち身障手帳未所持) | (44) | (32) | (39) |
| (うちTBI・うちCVA) | (31・66) | (31・81) | (18・70) |
| 退所者 | 65 | 90 | 65 |
| (2) 就労移行支援利用者(人) / 就労移行支援 40 名 | | | |
| 利用者 | 106 | 102 | 98 |
| (うち身障手帳未所持) | (58) | (63) | (61) |
| 退所者 | 66 | 65 | 57 |
| (うち身障手帳未所持) | (36) | (38) | (37) |
| 退所者中一般就労 | 45 | 43 | 46 |
| (うち身障手帳未所持) | (26) | (28) | (31) |

4. 主な活動

【24年度】

愛知県高次脳機能障害支援普及事業連携調整委員会

H24/9/12 委員（18名：拠点機関・愛知県・名古屋市・関係機関・家族会・学識経験者）

H25/3/15 委員（同）

厚生労働科学研究東海ブロック連絡協議会（主催県：愛知県） H25/1/25

東海4県の課題・方針と意見交換、研修会 生活版ジョブコーチ支援）

脳外傷リハビリテーション講習会 H24/11/3

第1部：「解体新書」をめぐって（深川和利、阿部順子、柴本礼）

第2部：シンポジウム 当事者の活動を考える（当事者、当事者活動支援者）

主な研修会講師等（愛知県内）

- ・名古屋市障害福祉事務担当者会
- ・愛知県保健所精神保健福祉関係職員業務研修会
- ・愛知県介護ネット研修会
- ・NHKハートフォーラム 「見えない障害」を支援する
- ・ABIA 家族相談会、サポートセンター笑い太鼓家族勉強会
- ・脳卒中認定看護師教育課程研修
- ・医療スタッフのためのスリアップセミナー「高次脳機能障害の看護」
- ・名古屋市中央看護専門学校

その他の主な活動

新規活動

- ・重点圏域研修
尾張西部圏域高次脳機能障害研修 概論、生活訓練・職能訓練、事例検討
半田市社会福祉協議会福祉従事者研修 認知訓練、生活訓練、職能訓練、地域支援、
家族会活動（5回）
- ・愛知県圏域会議での高次脳の周知

継続的活動

- ・名古屋リハ高次脳機能障害見学・研修会（県内病院関係対象）
- ・高次脳機能障害関連施設連絡会
- ・高次脳機能障害関連団体の運営施設への訓練委託

ほか

- ・見学受け入れ
- ・出版：名古屋リハリーフレット英訳版作成、高次脳機能障害児の冊子作成
生活版ジョブコーチ冊子（ガイドブック編、事例編 / 日本脳外傷友の会との協力）

【25年度】

愛知県高次脳機能障害支援普及事業連携調整委員会

H25/9/20 委員（18名：拠点機関・愛知県・名古屋市・関係機関・家族会・学識経験者）

H26/3/19 委員（同）

脳外傷リハビリテーション講習会 / H25/11/2 参加：248名

第1部 高次脳機能障害者の支援～家族会の立ち上げから現在まで（大橋正洋氏）

第2部 当事者家族による体験談

主な研修会講師等（愛知県内）

- ・名古屋市障害福祉事務担当者会
- ・愛知県相談支援従事者実務者研修

- ・ 大府市福祉・教育勉強会
- ・ 豊田市関係機関（介護保険）向け研修会
- ・ 愛知県 SW 協会尾張北部第一ブロック研修会
- ・ ABIA 家族勉強会、笑い太鼓家族勉強会
- ・ 愛知県看護協会講習会 /
- ・ 名古屋市中心看護専門学校

その他の主な活動

新規活動

- ・ 尾張西部圏域高次脳機能障害研修（24、25 年度）
- ・ 愛知県圏域会議での高次脳の周知（24、25 年度）

継続的活動

- ・ 名古屋リハ高次脳機能障害見学・研修会（県内病院関係対象）
- ・ 高次脳機能障害関連施設連絡会
- ・ 高次脳機能障害関連団体の運営施設への訓練委託

ほか

- ・ 見学受け入れ
- ・ 出版：名古屋リハリーフレット英訳版（発行）、高次脳機能障害児の冊子（発刊）

【26 年度】

高次脳機能障害支援普及事業相談支援体制連携調整委員会

H26/9/17 委員（18 名：拠点機関・愛知県・名古屋市・関係機関・家族会・学識経験者）

H27/3/18 委員（同）

講習会・研修会

- ・ 脳外傷リハビリテーション講習会 H26/11/1 参加：284 名
- 第 1 部 高次脳機能障害者支援の権利擁護（大輪典子氏）
- 第 2 部 シンポジウム 高次脳機能障害と社会的トラブル

主な研修会講師等（愛知県内）

- ・ 名古屋市障害福祉事務担当者会議
- ・ 愛知県相談支援従事者現任研修
- ・ 豊田市介護保険職員研修、豊田市自立支援協議会高次脳機能障がいセミナー
- ・ ABIA 家族相談会
- ・ 名市大神経系コース特別講演
- ・ 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程
- ・ 愛知県看護研修センター看護職員研修
- ・ 名古屋市中心看護専門学校

その他の主な活動

継続的活動

- ・ 名古屋リハ高次脳機能障害見学・研修会（26 年度は中断）
- ・ 高次脳機能障害関連施設連絡会
- ・ 高次脳機能障害関連団体の運営施設への訓練委託

ほか

- ・ 名古屋リハ機能の拡大 = 瑞穂区障害者基幹相談支援センター設置、地域活動支援センター「つきみがおか」開設
- ・ 見学受け入れ
- ・ 出版：NANDA-I の看護診断にもとづく高次脳機能障害の標準看護計画

5. 今後の課題と方針

(1) 課題

- ・ 支援が必要な高次脳機能障害者の累積的増加 脳外傷者は障害の特性から顕著
- ・ 生活基盤（生活管理部分）の支援が必要なケースの増加 家族の高齢化などによる
- ・ 相談の多様化 = “ 行政的 ” 診断基準に合わない（精神疾患、高齢者）や診断書希望のみ

(2) 方針

増え続ける高次脳機能障害者への訓練・支援体制の充実
地域の支援力の強化

課題に対応するため、名古屋リハの訓練・支援システムの社会復帰支援部分を地域で担う体制の拡充。そのため、これまでの地道な関わり（愛知県圏域会議での周知、重点圏域研修、計画相談の制度化への対応）を踏まえ、第1支援層（図2）との協力関係を深めていく。具体的には下記。

- ・ 制度化された計画相談策定などについて、ケースを通じた具体的な助言の積み上げにより、地域の相談支援事業所とのいっそうの信頼関係の構築を図っていく
- ・ 高次脳機能障害地域生活援助者（通称：生活版 JC）養成研究事業の再度の実施 / H27、28年度相談支援事業所を対象に、高次脳機能障害者支援のあり方（他の障害との相違点、共通点なども踏まえて）を明らかにし、有効な方法を検討、周知を図ることをめざす。

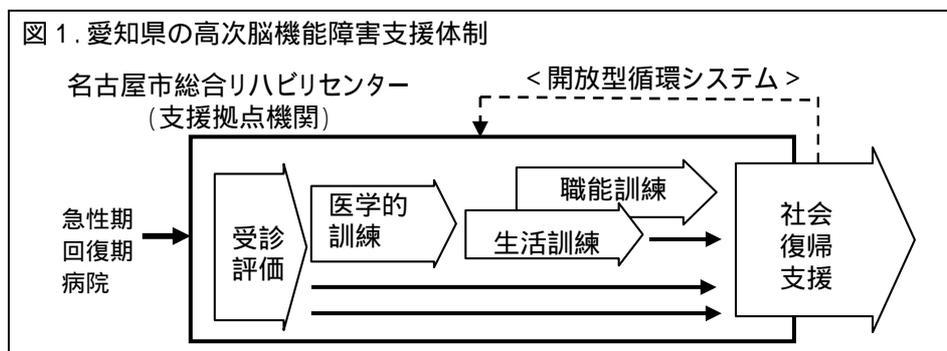
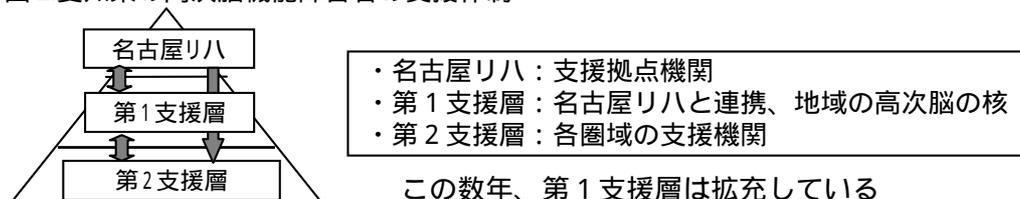


図2 愛知県の高次脳機能障害者の支援体制



その他

- ・ 名古屋リハの訓練機能の拡充 = 27年度から生活支援課の身障手帳未所持者の訓練希望増から定員変更（機能訓練 30名 25名、生活訓練 11名 16名）、就労支援課の訓練希望増から定員増（40名 46名）
- ・ 当事者団体との連携 = ABIA（愛知脳損傷協議会 / NPO 法人みずほ、NPO 法人笑太鼓、サークルフレンズ）との恒常的な連携強化
- ・ 啓発活動 = 脳外傷リハビリテーション講習会の開催、研修会講師（行政、支援機関、当事者団体、医療関係）、リーフレット改訂版の作成、名古屋リハ見学・研修会の実施

三重県 平成 24～26 年度報告

1. 支援体制

- ・支援拠点機関 三重県身体障害者総合福祉センター（電話 059-231-0037）
- ・支援コーディネーター数 1.5 人

2. 拠点機関数値実績

24 年度

| | | | | |
|------------|----------------|--|-----------|----------------------|
| 支援拠点機関相談数 | 来所 374 人 | 訪問 328 人 | 連絡等 599 人 | |
| 支援拠点機関連携数 | 来所 46 件 | 訪問 219 件 | 連絡等 644 件 | |
| 支援拠点機関活動実績 | | 連絡会・協議会 | 研修会・講習会 | ほか（ケース会議、勉強会・家族交流会等） |
| | 主催 | 2 回 | 2 回 | 6 回 |
| | 講師等協力 | 0 回 | 3 回 | 51 回 |
| その他活動 | 冊子、ウェブサイト、執筆ほか | 「高次脳機能障がいとは??」「高次脳機能障害者の制度活用の手引き」「高次脳機能障がいって、なあに?」（小児用パンフレット）の配布。損害保険協会助成金により、「高次脳機能障害支援経過手帳」の作成・配布。 | | |

25 年度

| | | | | |
|------------|----------------|--|-----------|----------------------|
| 支援拠点機関相談数 | 来所 334 人 | 訪問 429 人 | 連絡等 689 人 | |
| 支援拠点機関連携数 | 来所 60 件 | 訪問 346 件 | 連絡等 743 件 | |
| 支援拠点機関活動実績 | | 連絡会・協議会 | 研修会・講習会 | ほか（ケース会議、勉強会・家族交流会等） |
| | 主催 | 1 回 | 0 回 | 4 回 |
| | 講師等協力 | 0 回 | 8 回 | 35 回 |
| その他活動 | 冊子、ウェブサイト、執筆ほか | 「高次脳機能障がいとは??」「高次脳機能障害者の制度活用の手引き」「高次脳機能障がいって、なあに?」（小児用パンフレット）の配布。損害保険協会研究助成事業により、「高次脳機能障害支援経過手帳」の作成。 | | |

26 年度

| | | | | |
|------------|----------------|--|-----------|----------------------|
| 支援拠点機関相談数 | 来所 308 人 | 訪問 328 人 | 連絡等 534 件 | |
| 支援拠点機関連携数 | 来所 98 件 | 訪問 236 件 | 連絡等 569 件 | |
| 支援拠点機関活動実績 | | 連絡会・協議会 | 研修会・講習会 | ほか（ケース会議、勉強会・家族交流会等） |
| | 主催 | 2 回 | 2 回 | 1 回 |
| | 講師等協力 | 0 回 | 9 回 | 53 回 |
| その他活動 | 冊子、ウェブサイト、執筆ほか | <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット「高次脳機能障害者の制度活用の手引き」 ・リーフレット「高次脳機能障がいとは??」 ・チラシ「高次脳機能障がいって、なあに?」（小児用） ・「高次脳機能障害支援経過手帳」の普及、配布。 | | |

3.実績

【平成 24 年度】

「主催」

- ・高次脳機能障害者地域支援セミナー
平成 24 年 6 月 30 日
平成 25 年 1 月 19 日
- ・高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会
平成 24 年 7 月 7 日
平成 25 年 3 月 14 日
- ・高次脳機能障害ケースカンファレンス
(当センターの会議に拠点病院医師が参加 3 回)

「協力」

- ・高次脳機能障害者(児)リハビリテーション講習会)
平成 24 年 10 月 28 日
- ・ケースカンファレンス(施設・病院・相談支援センター・会社など)
- ・家族定例会(北勢地区 10 回、中勢地区 3 回開催)
- ・県相談支援部会(3 障害の相談支援事業所の会議に参加し、関係機関との連携と高次脳機能障害の普及活動を行う)
- ・犯罪被害者総合支援センター
- ・作業所

「視察対応」

- ・木沢記念病院からの視察受け入れ

【平成 25 年度】

「主催」

- ・高次脳機能障害者地域支援セミナー
平成 26 年 2 月 2 日
- ・高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会
平成 25 年 7 月 19 日
平成 26 年 3 月 7 日
- ・高次脳機能障害ケースカンファレンス
(当センターの会議に拠点病院医師が参加 4 回)

「協力」

- ・高次脳機能障害者(児)リハビリテーション講習会
平成 25 年 9 月 16 日
- ・ケースカンファレンス(施設・病院・相談支援センター・企業など)
- ・県相談支援部会(3 障害の相談支援事業所の会議に参加し、関係機関との連携と高次脳機能障害の普及活動を行う)
- ・愛媛県高次脳機能障害支援拠点機関「高次脳機能障害 三重県モデルに関する報告・シンポジウム」
- ・紀北地域障がい者総合相談支援センター「高次脳機能障害研修」
- ・志摩市社会福祉協議会「高次脳機能障害研修」
- ・市主催の相談会
- ・家族定例会(北勢地区 9 回、中勢地区 3 回開催)

【平成 26 年度】

「主催」

- ・ 高次脳機能障害者地域支援セミナー
平成 26 年 11 月 15 日
平成 27 年 2 月 10 日
- ・ 高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会
平成 26 年 7 月 18 日
平成 27 年 3 月 13 日

「協力」

- ・ 高次脳機能障害者（児）リハビリテーション講習会
平成 26 年 11 月 15 日
- ・ 高次脳機能障害者（児）リハビリテーション講習会
- ・ ケースカンファレンス（施設・病院・相談支援センター・企業など）
- ・ 家族定例会（北勢地区 9 回、中勢地区 3 回開催）
- ・ 県相談支援部会（3 障害の相談支援事業所の会議に参加し、関係機関との連携と高次脳機能障害の普及活動を行う）
- ・ 三重県障害者相談支援従事者初任者研修
- ・ 犯罪被害者総合支援センター研修会、鈴鹿
亀山圏域自立支援協議会研修会へ協力
- ・ 三重県障害者自立支援協議会傘下の療育部会・就労支援部会・相談支援部会へ参加。
- ・ ケースカンファレンス（施設・病院・相談支援センター・企業など）
- ・ 伊賀市障がい福祉研修
- ・ 松阪多気圏域計画相談事業所実務者研修
- ・ 市主催の相談会
- ・ 家族定例会（北勢地区 10 回、中勢地区 6 回開催）

4. 今後の課題

○継続的な啓発、地域に対する障害理解と支援普及

適切な支援につなげるため支援者ニーズに応じた研修の開催、圏域障害者相談支援センターや協議会に積極的に働きかけ障害理解や支援方法の普及に努める。

○相談支援体制の整備

計画相談の完全実施に鑑み、特定相談支援事業所に障害の理解促進が不可欠だ。圏域の障害者相談支援センターの協力と連携体制を構築し、研修や事例検討会の実施、助言指導・連携協力体制を強化する仕組みづくりが必要である。圏域での高次脳機能障害連携会議を開催し、拠点機関がスーパーバイザーとなれるような体制を整えていく。

○社会的行動障害への支援、連携

一般的な対応方法の伝達や個々のケースに対応可能となるように日中活動の受け入れ機関の確保が不十分である。また保健所や精神科医療等との関わりなど、精神保健分野に対しての普及啓発を検討いたしたい。

○就労支援

三重県は障害者雇用率や定着率も低い。就労支援継続B型からのステップアップが可能となるよう、地域の障害者就業・生活支援センターに対しても障害理解をより啓発していく必要がある。高次脳機能障害者の雇用促進と職業安定に貢献している企業に対し、表彰を行うことも検討中である。

